

技術開発完了報告

関東森林管理局

課 題	採種園産種苗の銘柄化に関する研究				開発期間	平成15年度 ～平成22(35)年度			
開発箇所	茨城森林管理署 268ろ2林小班	担当 部署	森林技術センター	共同研 究機関	森林総合研究所 林木育種センタ ー	技術開 発目標	(3) (5)	特定区 域内外	○
開発目的 (数値目標)	成長、幹の形質等に関して、これまでに明らかになったスギ精英樹クローンを用いて、交配に関与する雄親の数を減らすことにより、生産される種苗の差別化がどの程度できるかを実証的に解明する。								
実施経過	<p>○平成15年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地拵、試験地設定の準備 2. 試験木の植栽 3. 活着調査 <p>○平成16年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補植 2. 通常管理作業（下刈等の造林作業） <p>○平成17年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概況の調査（樹高調査の実行（3年次に相当）） 2. データの解析 3. 通常管理作業 （下刈等の造林作業） <p>○平成18年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通常管理作業（下刈等の造林作業） 2. 第58回日本森林学会関東支部大会で発表 <p>○平成19年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成長量調査 2. 通常管理作業（下刈等の造林作業） <p>○平成20年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常管理作業 （5年次調査データの解析：平成19年度実施報告時に報告済） <p>○平成21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7年次の成長量調査 <p>○平成22年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データの解析 								
開発成果等	<p>成長に優れたスギ精英樹クローンを用いた場合、交配に関与する親を減らすことにより、生産される種苗の差別化はできなかった。</p> <p>しかし、試験地における生存率及び成長の結果から明らかに活着率がよく（7年次生存率99%）、樹高成長も優れ（7年次平均樹高5m強）、7年次で地位2の10年次成長に匹敵することが明らかとなり、銘柄化は困難でも採種園の優良クローンから得た種子を用いれば初期成長に優れた林分を造成することが可能と思われた。</p> <p>銘柄化に関しては交配親をより限定することにより可能性はあると思われる。また現時点では初期成長のみにしか言及できないが、今後の経時調査により壮齡期の成長や材質に関する研究も可能と考えられる。</p>								